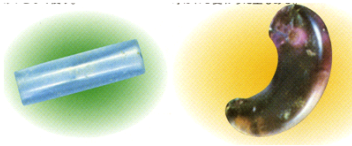


古代の宝石「まが玉」

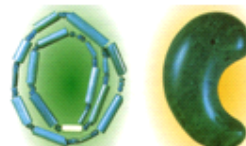
「玉」はその神秘的な輝きから、飾りとして身につけられていました。古墳時代になると、「権威のシンボル」としての役割を果たしていたこともありました。松江市玉湯町は、全国における玉作りの中心地で、花仙山産の原石で作られた玉は全国で見つかっています。



すいしやう くだたま
水晶製の管玉とまが玉



めう せいの まが玉
メノウ製のまが玉



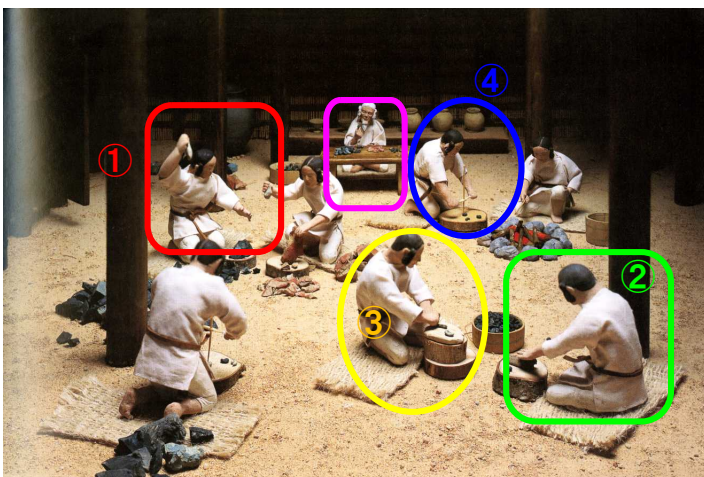
へきぎよく せいの まが玉
碧玉製の管玉とまが玉



かつせき せいの まが玉
滑石製の子持ちまが玉

まが玉作りの工房をのぞいてみましょう。

①～⑤の人たちは何をしているのかな？



① (大きな石を小さく削っている)

② ちょうどいい大きさに割っている。

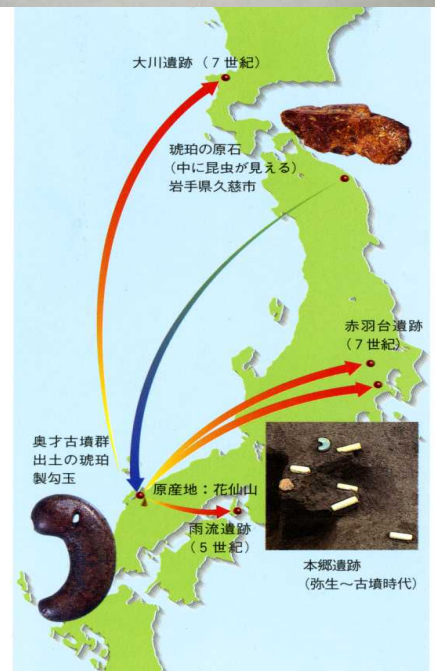
③ がんばってひたすら(みがいている)。

④まが玉に(あなをあけている)。

⑤長老が(けんさをしている)。

まが玉作りで苦労した点を想像してみよう。

- かたい石をまが玉の形にけずること。
- つやが出るまでみがくところ。
- あなをあけるところ。
- きれいな石を手に入れること。



まが玉の広がり